

第102回定例研究会

6月10日(水)

於:静岡県評会議室

東アジアの社会福祉

報告者: 李 蓮花 (リ レンカ) 氏

(静岡大学人文社会科学部 准教授)

1. 東アジアの社会福祉

- ・戦後の東アジア
日本: 民主化を経て「開発主義型福祉国家」へ
韓国、台湾、シンガポール: 開発独裁下の
輸出志向型工業化
中国(+北朝鮮、ベトナム): 社会主義指令経済
- ・1980年代になると
中国の改革開放: 第2の道への接近
韓国、台湾の民主化と新自主主義化: 社会保障制度の部分的導入
- ・1990年代半ば~2000年代半ば
社会政策の発展の本格的スタート
1997年 アジア通貨危機
「東アジア型経済発展モデル」の限界、修正
「福祉国家化」、特に韓国
1996-99年 中国の国有企業大改革
市場経済(資本主義経済)へ
体制移行の完成(2001年WTO加盟)
市場経済に適した社会保障システムの構築へ
- ・2000年代半ば以降
韓国と台湾を中心に
ポスト工業化と新旧社会的リスクの噴出
生産レジームの変化
雇用の流動化、労働市場のミスマッチ
高学歴化、青年失業、人手不足と外国人労働者
再生産レジーム
超少子化、高齢化
外国人ケア労働者や結婚移民
- ・東アジアの社会福祉を見る視点
「後発性」
先進福祉国家との間に50年の時間差
「圧縮性」
旧社会的リスクと新社会的リスクの同時出現

2. 中国の医療改革

- ・1950年代~1978年 計画経済期
都市と農村の分断(二元社会)
二元的な生活保障システム
農村は基本的に保障なし
揺りかごから墓場まで保障
- ・1980~2002年 体制移行期
1993年 「社会主義市場経済」論 社会保障改革の本格化
1990年代後半 国有企業大改革
1997-99年 医療、年金、失業、最低生活保障制度など次々に導入
- ・2003年以降 ポスト改革期
2001年 WTO加盟
農村の社会保障問題、格差の拡大 「和諧社会」
(調和のとれた社会)
2003年 農村に「新型農村合作医療制度」
2007年 都市住民基本医療保険制度
2010年ごろ「皆保険」
2009年 農村社会養老保険制度
2011年 都市住民社会養老保険制度
2015年? 「皆年金」
都市と農村の最低生活保障制度
- ・中国の社会保障の特徴
都市と農村の二元制度 統合へ
職域(労働者)保険+地域保険 「東アジア的」
政府補助への依存
医療と年金における「個人口座」
ナショナルミニマムではなくローカルミニマム

* 連絡先: 静岡県労働研究所 TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973
〒422-8062 静岡市駿河区稲川 2-2-1 セキスイハイムビルディング 7F (静岡県評内)
メール roudouadv@wave.wbs.ne.jp ホームページ <http://www.geocities.jp/shizuokarouken/>